

しょうじゅあんじゅういちめんかんのんぞう
正受庵十一面観音像



△十一面観音像

正受庵への伝来は明らかではないが、『飯山町誌』によると、飯山藩主松平忠俱が、恵端禅師の帰飯を喜び、禅師に一庵を造り与え、本十一面観音像を贈ったと伝えられているが、真偽については明らかでない。

ひたすら禅の修行に打ち込んだ恵端禅師が、日夜、祈りをささげたこの像が正受庵に残されていることは、禅師の心に触れる貴重な遺産である。